

検査項目の説明①

20230401

身体計測	
標準体重、肥満度、BMI	標準体重(kg)=身長(m) ² ×22で求めます。 BMI(Body Mass Index)=(体重 kg)÷(身長 m) ² は肥満の指数で、体脂肪率とも相関し、統計的に BMI=22 前後の人が最も病気になるに「くい」といわれています。 肥満は生活習慣病の原因となり、BMI=25 以上は注意が必要です。 なお、身長の高い人は低めの値となり肥満を過小評価される可能性が、筋肉質の人は高めの値となり過大評価される可能性があります。
体脂肪率	男性15～25%、女性20～30%程度が標準です。
腹囲	血圧、血中脂質、血糖値などの結果と合わせてメタボリックシンドロームの診断に用います。

血圧	
血圧	<p>心臓が収縮し血液を送り出す時の血圧を収縮期(最高)血圧、拡張した時の血圧を拡張期(最低)血圧といいます。 「高血圧治療ガイドライン2019」では140/90mmHg 以上を「高血圧」、120/80mmHg未満を「正常血圧」とし、その間を「高値血圧」と「正常高値血圧」に分けています。</p> <p>運動不足、ストレス、アルコール過飲などが高血圧の原因になりやすく、血圧の上昇に伴い脳梗塞や心筋梗塞などの脳心血管病の発症リスクが高くなります。 更に糖尿病や脂質異常症など他の生活習慣病がある場合は、脳心血管病予防の観点から、より厳格な血圧のコントロールが必要となります。</p>

「高血圧治療ガイドライン2019」日本高血圧学会

眼科	
視力	裸眼視力または矯正視力を計測します。矯正のバランスが悪いと、眼精疲労や肩凝り、頭痛の原因となることがあります。
眼圧	空気圧により眼球内圧を測定します。緑内障の早期発見のための検査です。 緑内障は高眼圧のために視神経の機能障害をきたす疾患で、放置すると視野狭窄や視野欠損を起こし、最悪の場合失明することもあります。
眼底	眼底をカメラで撮影し、眼の疾患や網膜の異常を早期に発見します。また、眼底血管の性状から糖尿病性の変化や全身の動脈硬化度を推察します。Scheie H は高血圧性の変化を、Scheie S は動脈硬化性の変化を表します。

緑内障は成人の失明原因の第1位です。早期発見、早期治療を行うことで進行を遅らせることができます。
自覚症状が出た時点では、視野欠損がかなり進んでいます。
視神経乳頭陥凹、視神経繊維層欠損、眼圧高値と指摘されたら、必ず眼科を受診しましょう。
当診療所には視野検査、OCT検査(光干渉断層計:網膜の断面画像を撮影する装置)があり、緑内障の早期発見・早期治療を行うことができます。

聴力	
オージオメーター	1000Hz(低音域)と4000Hz(高音域)の聴力を検査します。
会話法	診察の際に医師との会話のやりとりの中で聴力検査を行います。日常会話に支障がなければ「異常なし」と判断されます。

便潜血(免疫法)	
便潜血(免疫法)	大腸、直腸、肛門などの消化管からの出血があると陽性になります。大腸ポリープ、大腸がんのほか、痔からの出血や裂肛でも反応しますが、陽性者の3～6%に大腸がんが存在するといわれています。 陽性反応もしくは出血や痛みなどの自覚症状のある場合は、大腸がんの恐れや下部消化管に何かしらの異常が発生していると考えられるので精密検査が必要です。

尿検査	
pH	正常は弱酸性(pH6.0位)で食生活により変動します。過度の肉食、過飲、カルシウム不足で酸度が高くなると尿路結石の原因となります。
蛋白	腎障害、腎炎などで陽性となりますが、発熱時や激しい運動で陽性になることもあります。
糖	糖尿病などにより血糖値が高値になると尿糖が陽性となります。陽性の場合は糖尿病を疑い、さらに詳しい検査を行います。
ビリルビン	肝炎、肝がんによる肝障害の他、結石や腫瘍による胆道閉塞や、体質性黄疸で陽性になります。
ウロビリノーゲン	健康な方でもわずかに検出され、正常は「±」です。肝障害で陽性となりますが胆道閉塞では陰性になり、尿ビリルビンと異なる変化を示すので、黄疸を伴う肝疾患の鑑別に利用されます。そのほか溶血性貧血などの赤血球の分解が進む疾患、および腸閉塞や過度の便秘で陽性となり、下痢や抗生剤の長期投与で陰性となることもあります。
潜血	腎臓、尿管、膀胱、尿道、前立腺などの疾患で陽性となります。そのほか遊走腎、激しい運動の後に陽性となることもあります。
沈渣	尿中の固形成分(赤血球、白血球、上皮細胞、塩、結晶、円柱など)を顕微鏡で調べます。腎臓、尿路系疾患の診断に用います。